

次世代文明OSのアーキテクチャ

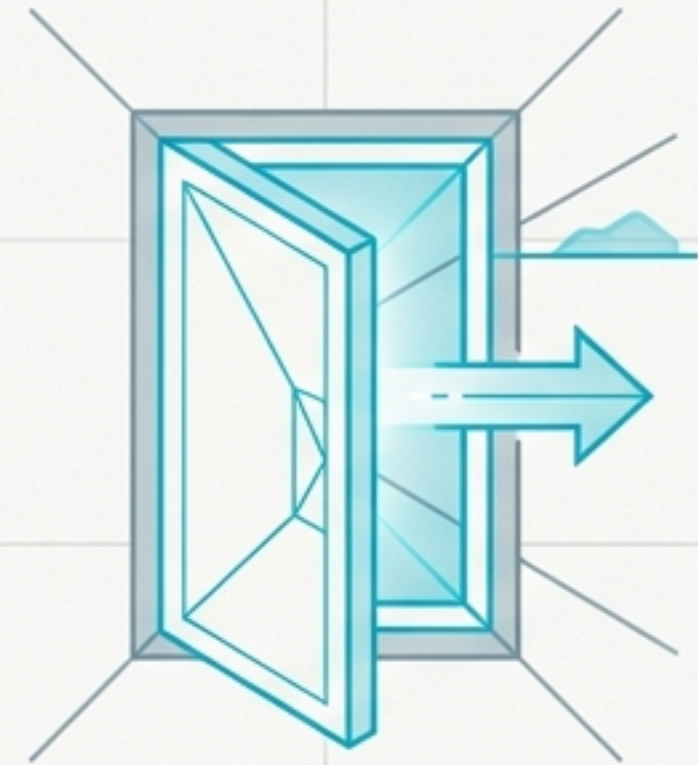
中川式 接続価値会計論——「つながり」を評価単位にする社会設計

SYSTEM ERROR: 暗黒方程式の暴走

[労働 × 時間 = 貨幣]

限界費用ゼロ化

「労働 = 貨幣」の終焉。
AIによる自動化が限界費用をゼロに近づけ、
貨幣獲得の前提が崩壊する。



受動的な「解放」ではなく、
崩壊からの能動的な「脱出」。
次なる普遍的資源への移行。

価値測定器としての「貨幣」の3つの機能不全



測定の粗さ

信頼密度・文脈翻訳・共鳴の深さといった非代替な貢献は、時給や価格では測り切れない。



発行権と収益の乖離

価値創出主体と価値捕捉主体の非対称が拡大し、实体经济への感度が失われる。

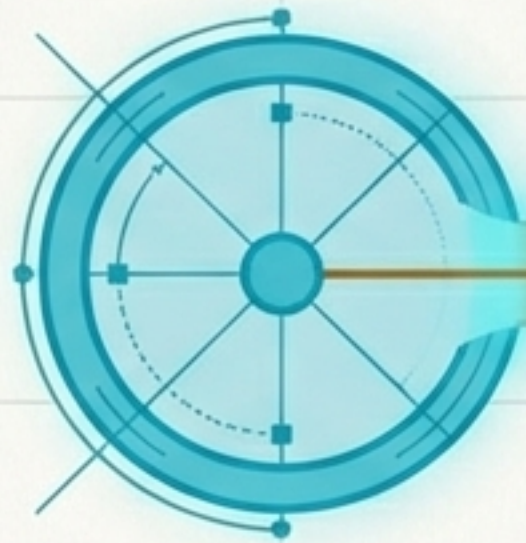


希少性の蒸発

AIによる同質供給が無限複製可能となり、旧来の価格付けシステムが空回りする。

$$S = C \times 1.0$$

(成功 = 貢献 × 構造的照応)



DATA

RSO-I

TPB

DATA

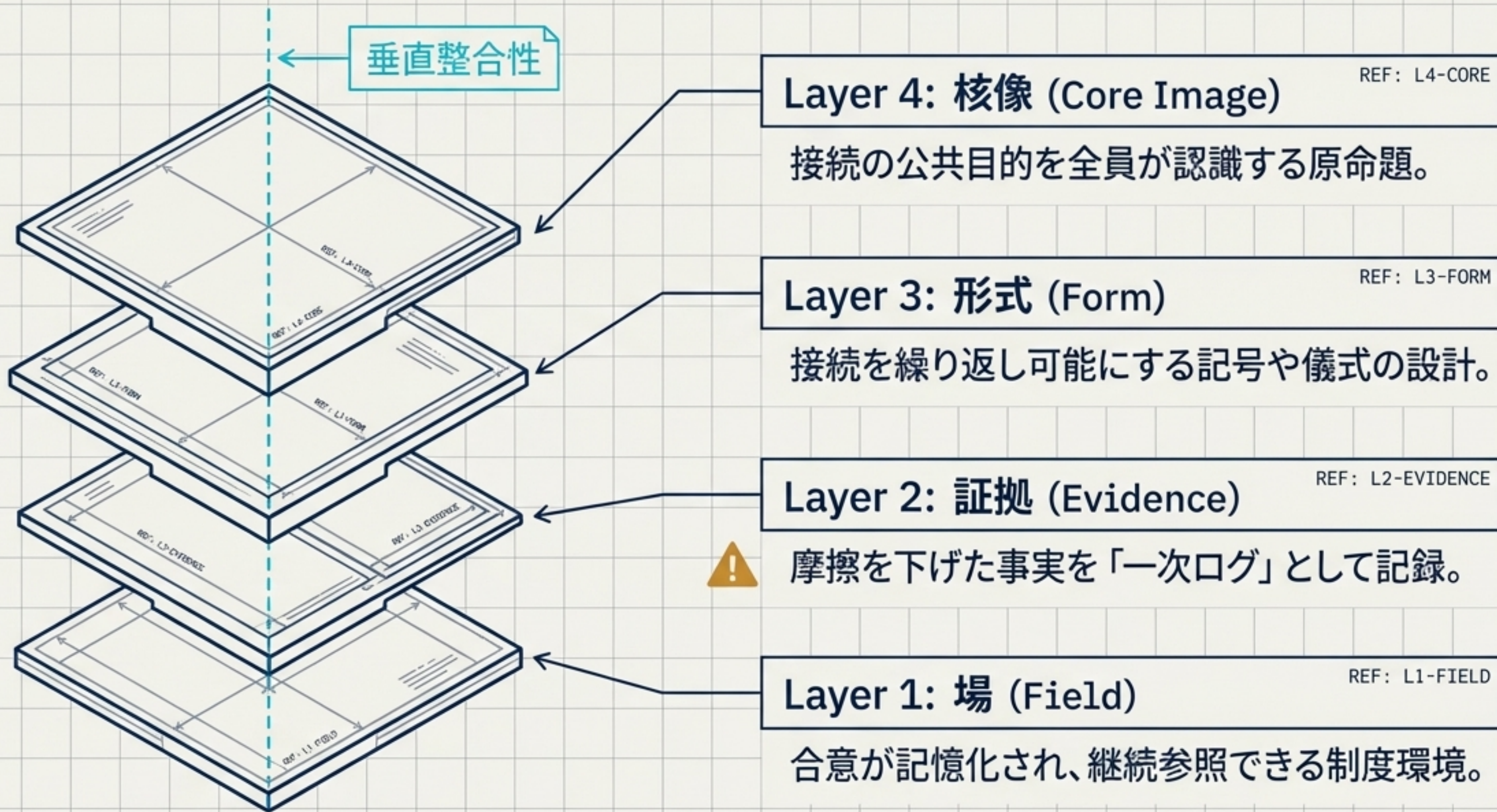
接続価値 (Connection Value)

主体間の関係構造が、未来の意思決定や協働における「摩擦」を低減する力。

接続報酬 (Connection Reward)

接続価値を評価し、社会の制度として配分可能な単位に変換したもの。

接続価値を帳簿化する「四層設計」



境界運用原理：T / S / R



T (閾値 - Threshold)

摩擦を削るのではなく、システムが受け止める安全限界を定義する。



S (沈黙 - Silence)

応答をあえて遅延させる冷却窓。過熱や同調圧力を抑え、自己因果性を強化する。

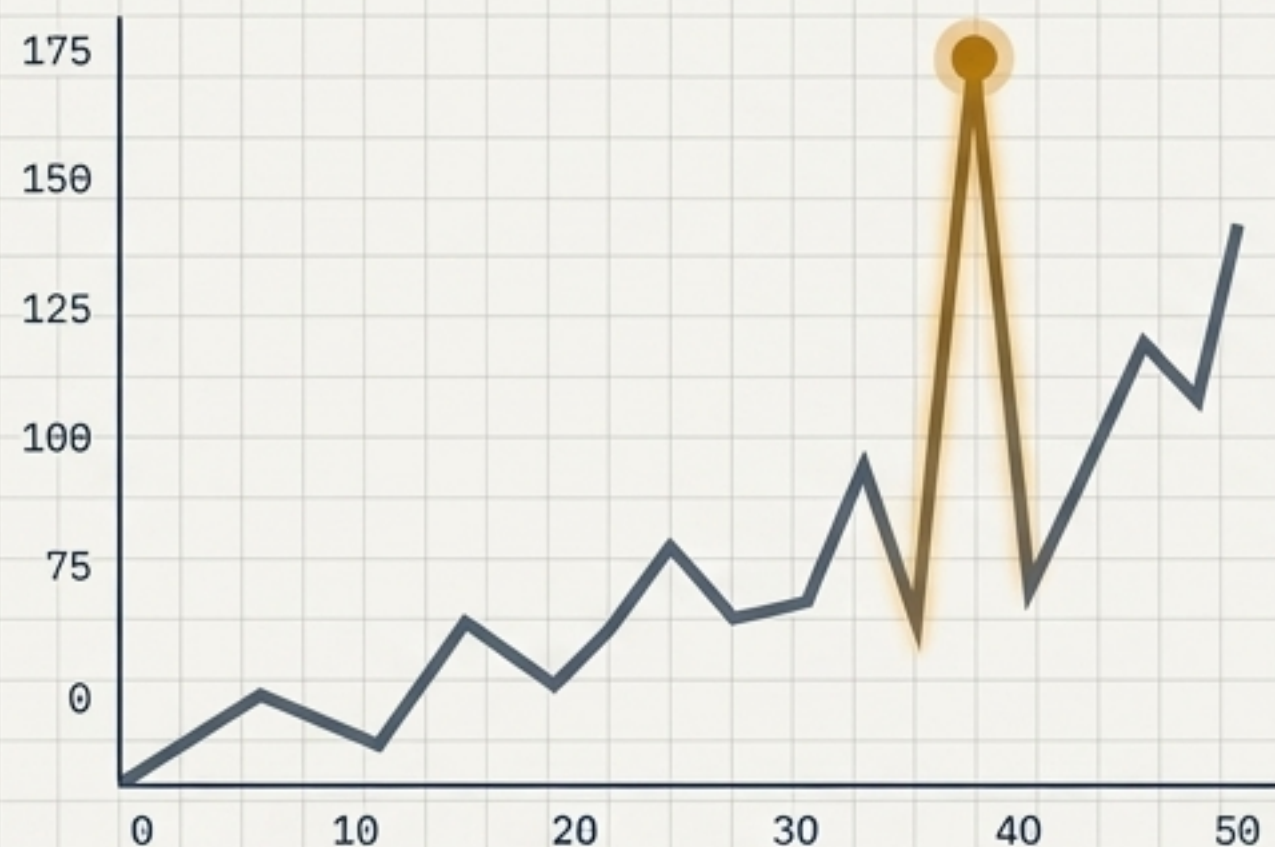


R (可逆性 - Reversibility)

一方的な固定化を防ぎ、透明かつ自由に「撤回」「再接続」できる巻き戻しの導線。

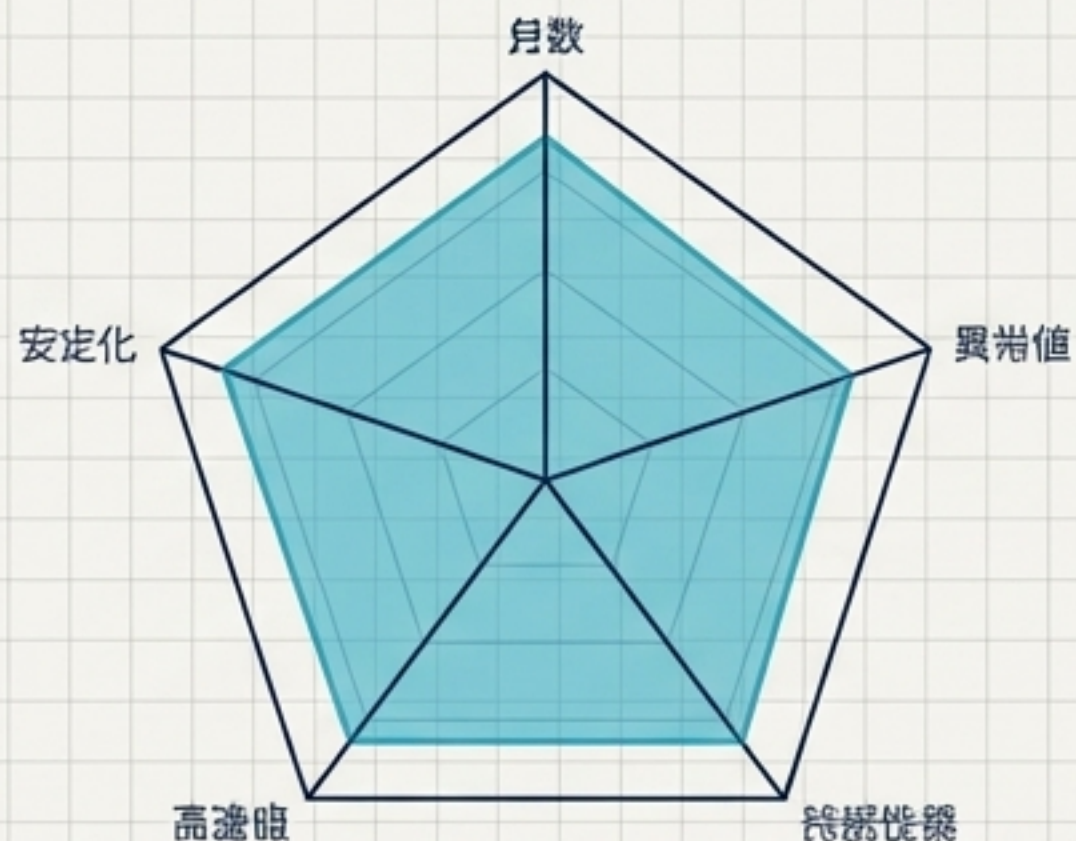
単一指標の暴走 vs 複合による「束指標」

単一指標の暴走 (旧来)



声量偏重・権威依存・速度トラップ。
特定要素（フォロワー数、短期収益）の
最適化が制度を歪める（ゲーミング）。

束指標 (中川式)



複数の指標を束ねて監視。
異常値の突出を防ぎ、構造的な正統性と
持続性を担保する。

接続を測る五つの尺度 — Bundle Metrics (v0.9)

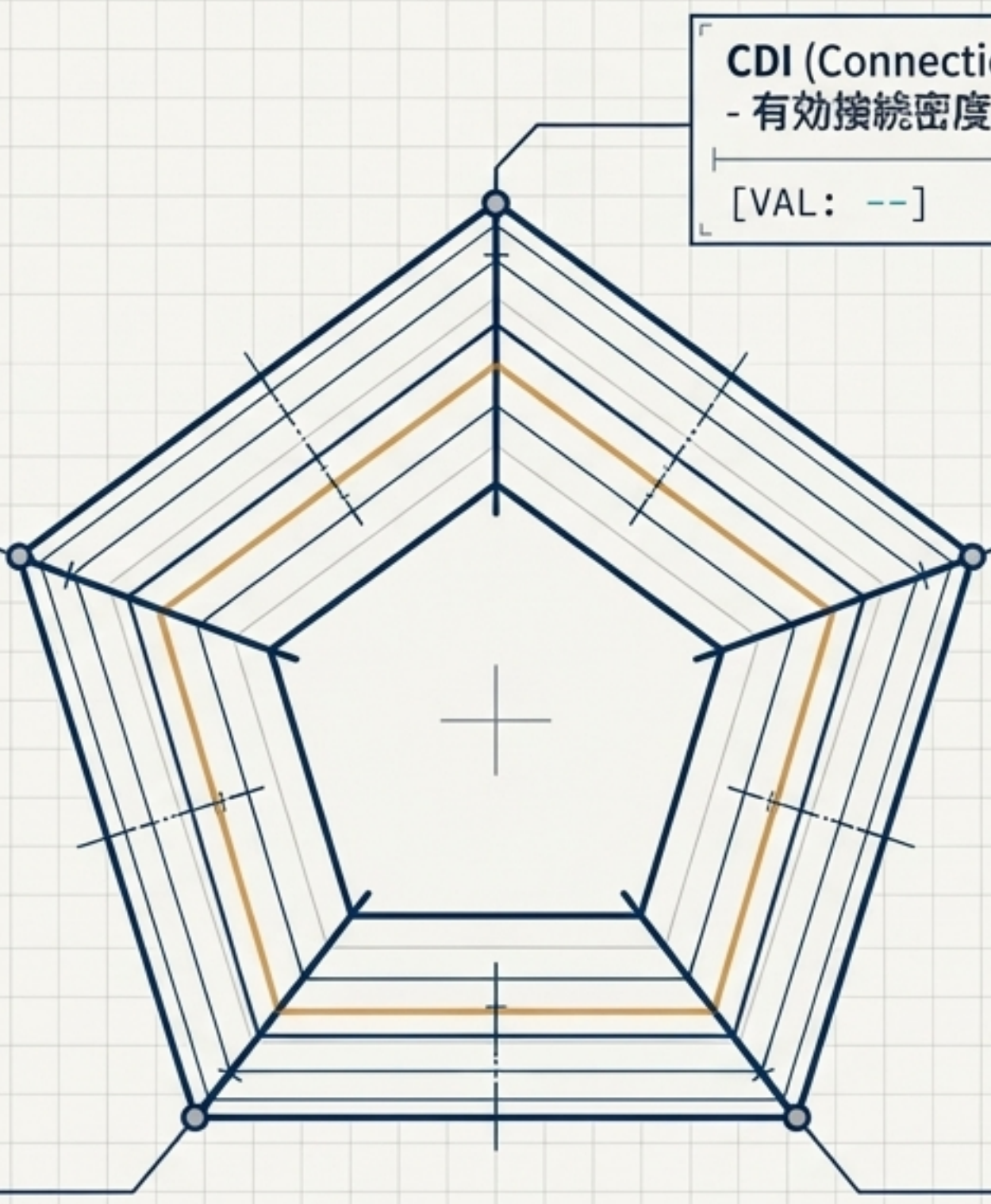
CDI (Connection Density Index)
- 有効接続密度。信頼の厚みと重なり合い。
[VAL: --]

KQI (Qualitative Impact Quotient)
- 質的厚み。構造的アウトカム（指名相談比率等）の要旨件数。
[VAL: --]

MAI (Mutual Agreement Interval)
- 再合意生成に要する平均時間。意思決定の短縮度。
[VAL: --]

CRI (Consistency of Review & Inspection) - 監査一貫性。独立観測点による正統性評価。
[VAL: --]

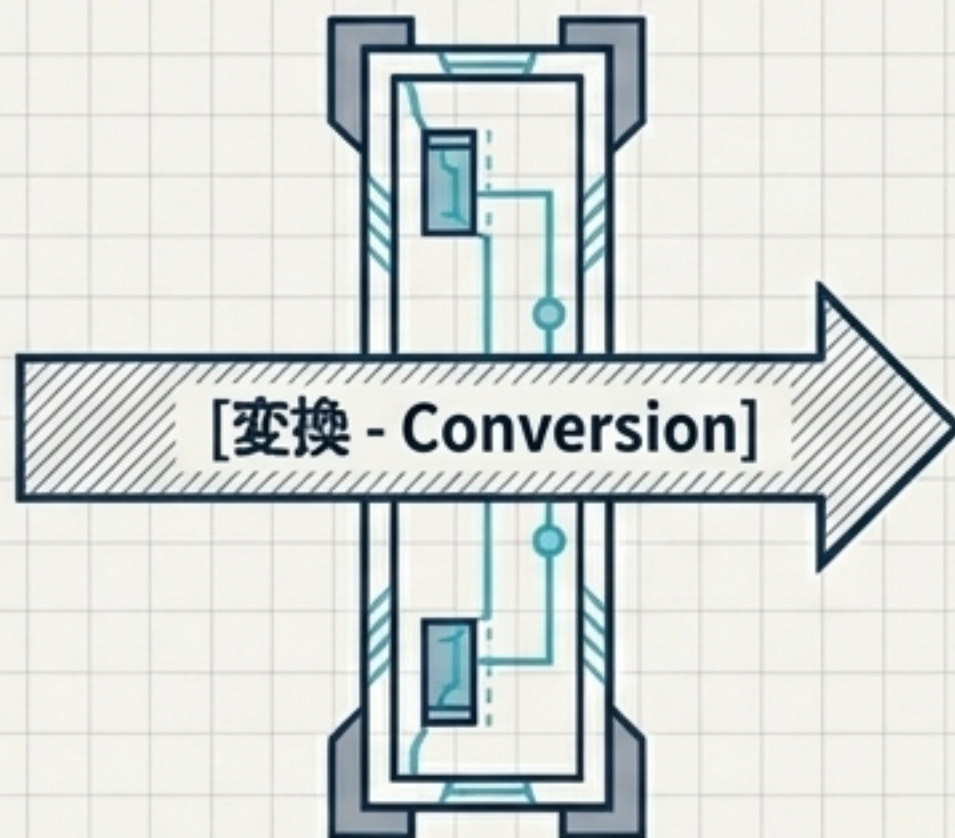
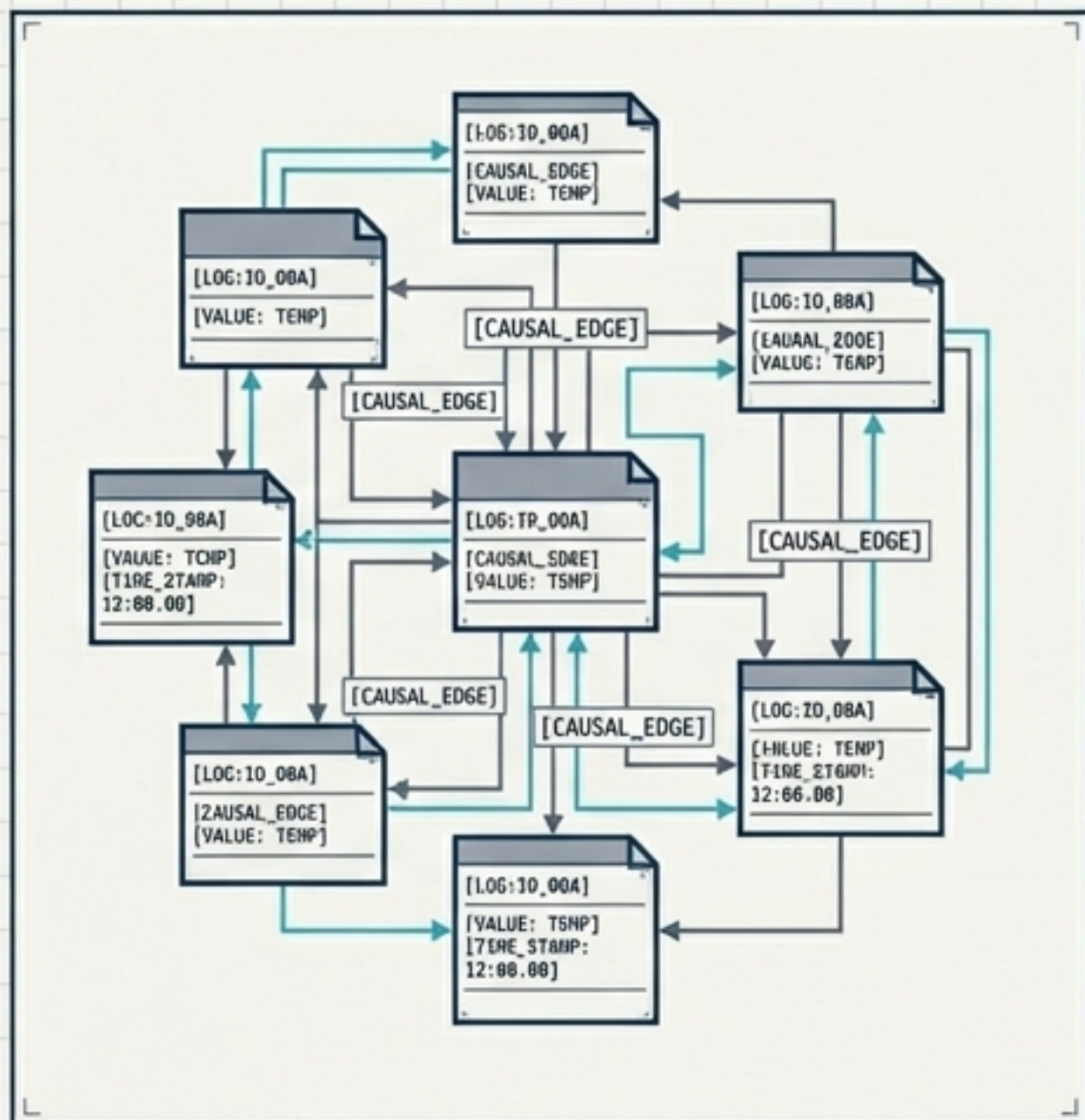
RS (Reversibility Score)
- 可逆性。離脱と再接続の容易性・自由度。
[VAL: --]



価値を記録する「帳簿」の実装

構造ログ (Structural Log)

接続・同意・修復の因果関係を保持した時相グラフ。
人物名や権威を評価から切断した一次証拠。

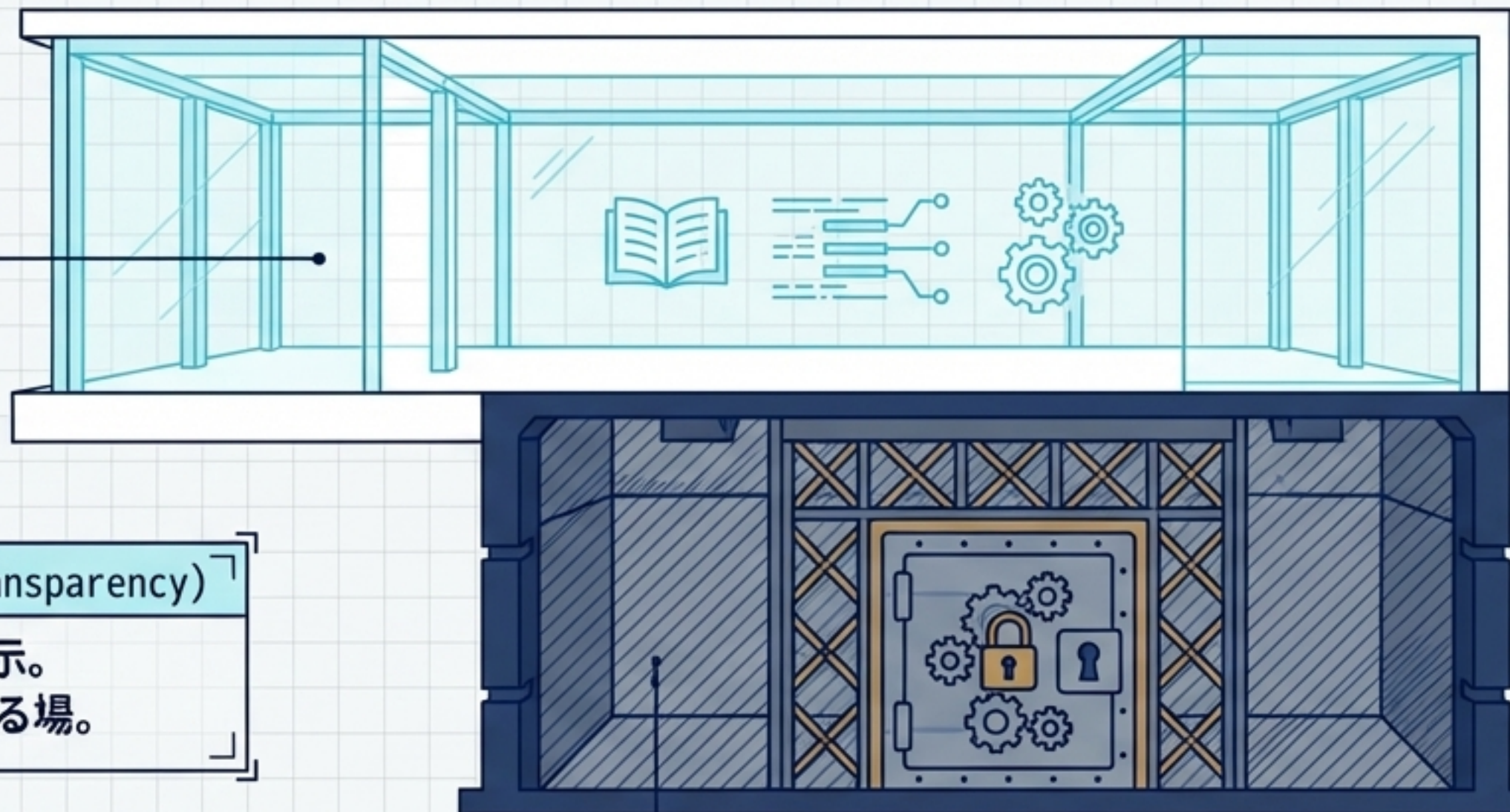


監査要旨 (Audit Summary)

ログを要約した公開窓。目的・結果・再現手掛かりを明示し、社会に対する透明性と正統性を確保する。A4一枚の平叙文。



接続ガバナンスの二室モデル



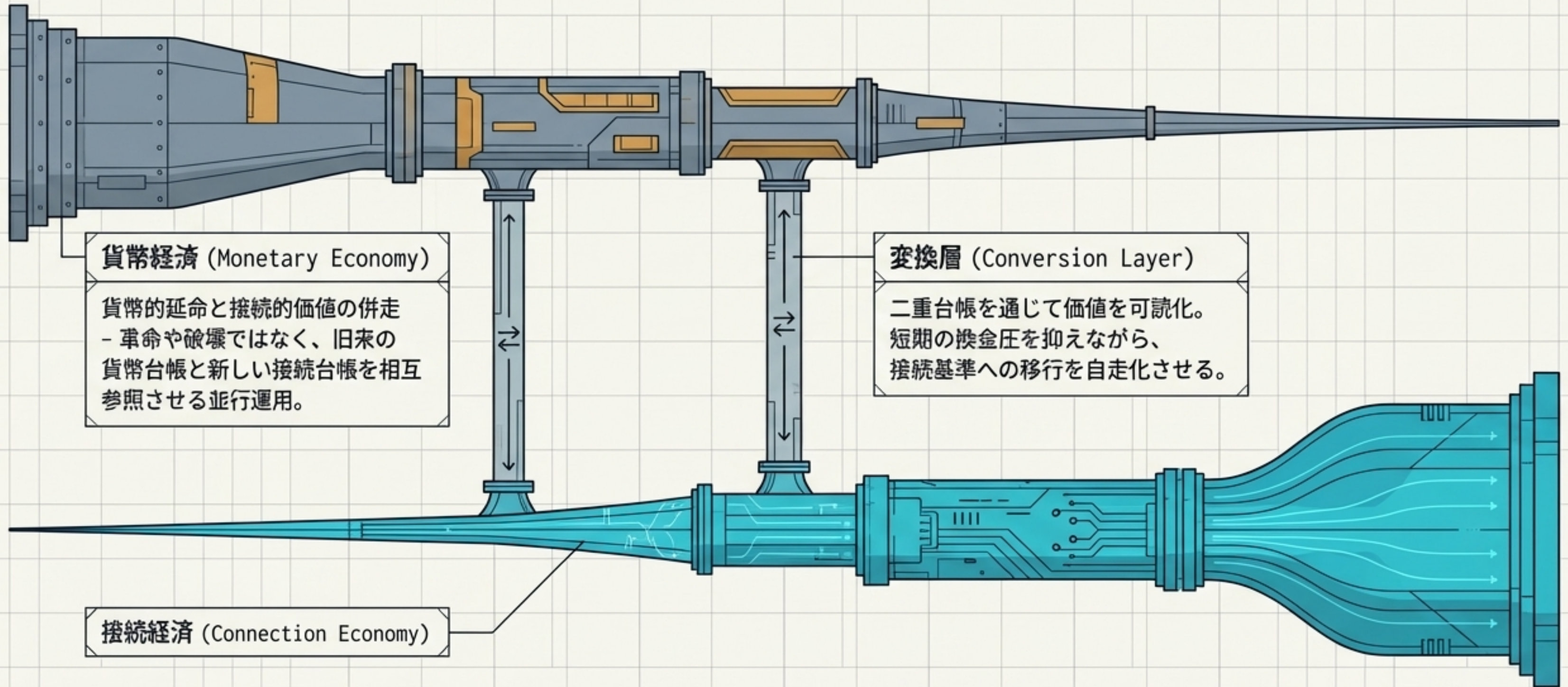
公開室 (Public Room - Transparency)

定義、監査要旨、統計の開示。
理念と方針を社会と共有する場。

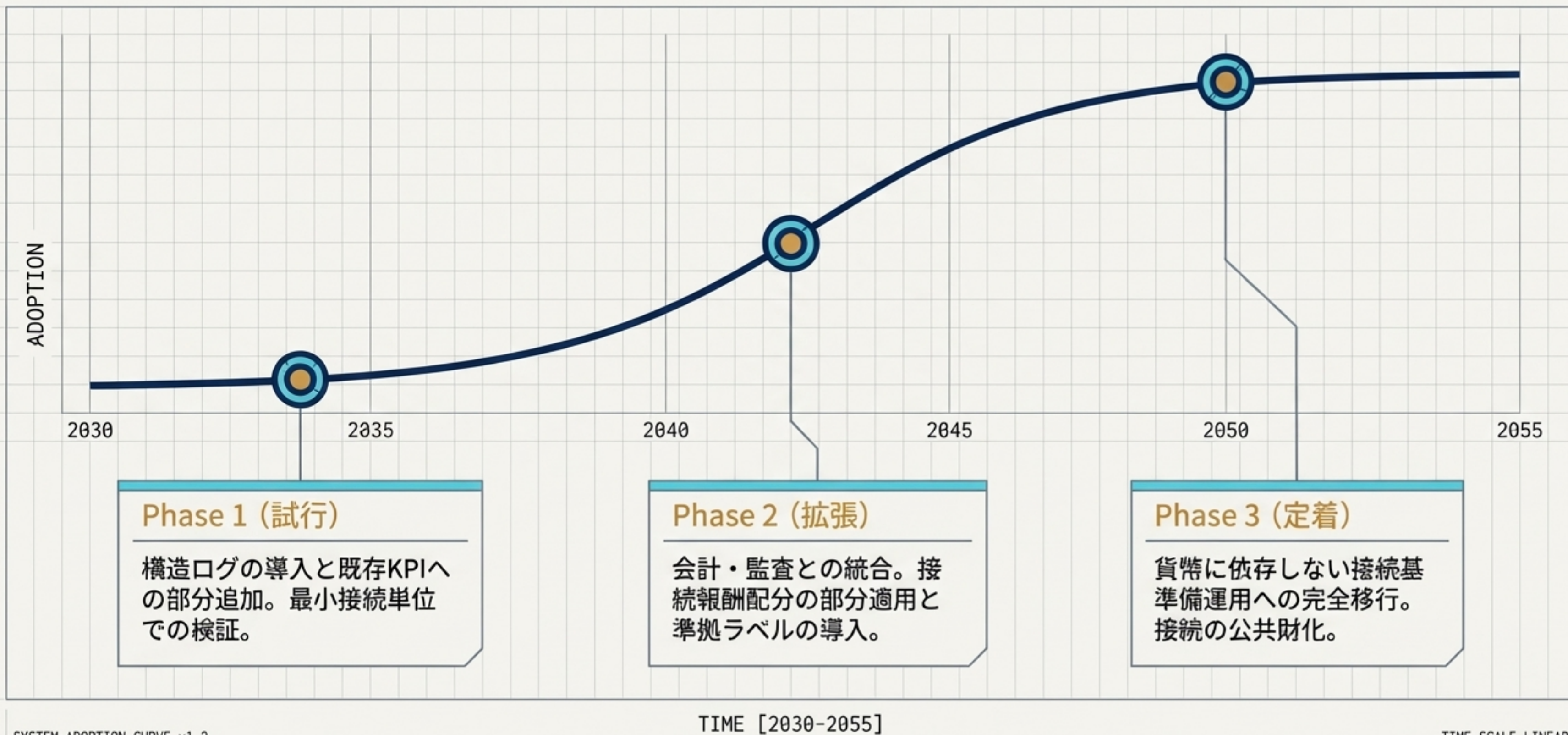
機関室 (Engine Room - Security)

具体的な算式、重み付け、閾値テーブルの秘匿管理。
恣意的な最適化（ハック）を防ぐ移動標的の運用。

移行戦略：デュアル運用期の「秩序ある置換」



接続文明ロードマップ [2030-2055]



統合：次世代文明OSとしての社会実装



価値の起源は労働から「接続」へ。

社会の秩序は、個人の善意や声量ではなく、「非強制・可逆・検証可能」な構造によって担保される。

結論：予測ではなく、「構造」を設計することで未来を確定させる。

これが、中川式が提示する人類の次なる『価値の設計図』である。

構造的起源署名 | Origin Signature

[THEORY]: 中川式 接続価値会計論

[NCL-ID]: NCL- α -20251102

[AUTHOR]: 中川マスター (Nakagawa Master)



本構造は「非強制・可逆・検証可能」を原理とする。

誰が語るかではなく、何が残るか。

接続社会の未来は、この起源から設計される。